

Winter
is
still.

soukensya
TEL:0246-68-6111 FAX:0246-80-2103
<http://www.soukensya.co.jp>
E-mail:info@soukensya.co.jp

I'm Home

I'm Homeは創建舎が編集発行するフリーペーパーです。
私たち創建舎は家づくりを通して、日々の暮らしを豊かで笑顔の多い生活であることを願います。そして、環境に優しい家づくりをこれからも目指します。

『STAFFだより』

跡継ぎもなく店主が高齢のために閉店する店が増えている。といった内容の番組をTVで観た。長年親しんだメニューがもう食べられなくなるってこと。そういうえば、地元にあったお肉屋さんのポテトサラダやマカロニサラダ、今はないパン屋の名物パン。他店のソレとは似てはいるけど、違うんだな…。ネット上にある素人の評価なんてどうでもいいし、美味しいものなんてこの世の中にはたくさんある。でもそれだけじゃない。好物のうなぎを抑えて、私の一番は、朝寝坊した私に急いで渡されたおにぎり。特別じゃない普通の梅干しとパンチのある塩味、全然高級じゃない海苔を纏い、テキトーに握ったかのようなふにゃふにゃの母が作ったおにぎりが世界で一番美味しい食べ物だと思っている。久しぶりに握ってもらおうかな…。



『編集後記』

スコーグフェスの開催が近づいて来ました。今回のvol.47でちらっとですがご紹介。いつもたくさんの方にご来場いただき、準備するスタッフも楽しみにしております。あとはお天気次第。晴れ男のうちのボス。またその力を発揮して~！と。

そんななか、台風19号が来た。いつもはいわきを軽くスルーしていく台風ですが、今回は違った。台風としての規模も大きかったこともあり、被害の酷さがわかるにつれ、イヤでも震災を思い出す。直接、浸水などの被害に遭われた方はもちろんですが、今回は大規模な断水が発生して、不便な生活をされている方が大勢いらっしゃいます。少しでも早く元の生活に戻れるよう心から願っております。表紙は野らぼうさんのナツメです。



七五三の記事で
久々にアルバムをのぞく
まだ小さかった長男の姿
成長を感じる…



〒971-8146
いわき市鹿島町御代字九反田51-1
株式会社創建舎
TEL 0246-68-6111
FAX 0246-80-2103
HP <http://www.soukensya.co.jp>
E-mail: info@soukensya.co.jp
Facebook ID: iwaki.soukensya
Instagram: soukensya
建設業/福島県知事(般-26)第31516号
宅地建物取引業・福島県知事(4)第2277号
一般建築士事務所/福島県知事18(705)0372号

スコーグ フェス SKOG FES 2019 Autumn



おかげさまで、
スコーグフェスが5回目を迎えることになりました。
ご協力いただく素敵なお店や
ワークショップもご用意。
お楽しみに♪

11月10日(sun)
10:00~16:00

いわき市鹿島町御代字九反田51-1
株式会社創建舎
(事務所内・駐車場内)

HANDMADE

- Eeny,meeny,miny,mor*…アクセサリー
- crossroad…布小物ほか
- niko-smile…ほっこりぬくぬくな羊毛雑貨
- Sencia…アクセサリー
- SUGAR ROSE…アクセサリー、雑貨
- INK.BLUE…アクセサリー
- bobbinボビン…大人服、子供服
- Bonbosucco…布小物と大人服

FOOD & DRINK

- ジェラテリア バルコ …ジェラート、ワッフル、タピオカミルク
- bo-shi coffee …ハンドドリップコーヒー、ジュースなど
- 小林とうふ直売所 …豆腐などの大豆製品、とうふドーナツ
- ピストロ アンティカ …煮込みハンバーグ・自家製ソーセージ
- 日の丸亭 …タンドリーチキンとトマトとバターのカレー
- 生木場ファーム …クッキーやマフィンなどの焼き菓子

WORKSHOP

□陶芸教室かたち □創建舎 □Full …かわいいアクセサリーが作れます。

【陶芸ワークショップ】

A. どなたでも出来る、豆皿 1枚 200g
1,000円 所要時間：20分

B. 手回しろくろで作る
茶碗・マグカップ・プレート
(いずれか1点) 500g
2,000円 所要時間：1時間

①10:00 ②12:00 ③14:00
※各8名様

ご予約は ①青木様携帯 TEL 080-6636-0666 (9:00~18:00)
②創建舎HP ワークショップご予約フォームより

主催 陶芸教室かたち
青木様



【木工ワークショップ】 主催 創建舎

本棚（シェルフ）1,000円 所要時間：1時間

右の写真のような本棚を作ります。
写真はイメージです。デザインや仕様など、
実際異なる場合もあります。

①10:00 ②11:00 ③13:00
④14:00 ⑤15:00 …各5名様

ご予約は ①電話 創建舎 TEL 0246-68-6111 9:00~18:00(平日)
②創建舎HP ワークショップご予約フォームより



※ワークショップは定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。
※ご来場者様の駐車場は「みよの杜」様 第二駐車場になります。

七五三について



七五三の起源は室町時代とされています。
当時は生まれすぐに赤ちゃんが亡くなることが多く、無事に成長して生後3年～4年経ってから、当時の戸籍に登録をしていたそうです。
そして3歳、5歳、7歳になると神社や寺などに行き、
無事にこの年まで成長したことを感謝をし、そしてますますの成長と幸せを神様にお願いするようになりました。これが七五三の由来です。

七五三にはそれぞれ意味があります。
3歳は、男女ともに髪を伸ばし始めるという「髪置(かみおき)の儀」がある。
江戸時代は3歳までの子供は髪を剃っていて、それが3歳で終割りになる風習があり、そこから来ています。
男の子の5歳は、男の衣服、袴を着るという「袴着(はきぎ)の儀」がある。
これは男の子が袴を着用し始めるのが5歳からで、
女の子の7歳は、着物帯を着はじめる「帯解(おびとき)の儀」があります。
女の子が幅の広い大人の帯を結び始めるのが7歳からだったことから来ているそうです。

11月15日は、徳川綱吉の長男・徳松の健康のお祈りをした日です。
お祈りをした後は徳松がすくすくと成長したことから、
各地で七五三を11月15日にするようになったと伝わっています。
最近は、神社が混雑するのを避けるためだったり、
この日がお休みでなかったりするので、
時期をずらして参拝されることも多いようです。

ちいさい秋、見つけた！



野らぼうさんで
見つけた
美味しい秋。
冬が来る前に
どうぞ！



米粉ロールケーキ
マロンクリーム

野らぼう

いわき市添野町桑木町52
0246-62-3467 (おがわ方)
OPEN 9:00~15:00 CLOSE 水・木曜日

レンタルギャラリー デュロム
Rental Gallery『Dröm』
¥1,000で貸し出し中～！

創建舎事務所内にあるレンタルスペース『Dröm』デュロムは、スウェーデン語で「夢」を意味する言葉。夢のある生き方のお手伝いを…。そんな思いから地域貢献の場としてギャラリーをお貸出ししております。

ワークショップやカルチャースクール等には是非ご利用下さい。ご利用の内容によってはお断りする場合もございます。ご興味のある方は、一度見学にお越しください。商品の販売を伴う会員勧誘などのセミナーはご利用できません。まずは、お気軽にお電話ください。ご利用お待ちしております。

¥1,000/1部屋1日(平日のみ)



*いわき市錦町下り立 建築条件つき



I'm home の
バックナンバーについて

今回の「I'm home」vol.47をたまたま手にした方も、いつも読んでくださっている方も、バックナンバーが見たいな…と思ったら創建舎のHPに見に来てください！パソコンからはもちろん、スマホからも見ることが出来ますので、是非どうぞ！右の写真はスマホの画面の写真です。こんな風に出てきますので、気になったものを開いてみてね。vol.13から最新号までありますよ～！

I'm Home
communication

I'm Home通信



落ち着いた雰囲気の
北側のお部屋は
ピクチャーレール
があるので作品の
展示などに。→

親子のすまい方教室 方位と住まいの歴史

監修 跡見学園女子大学 村田 あが

家相の始まり みなさんは「鬼門（きもん）」ということばを聞いたことがありますか。もちろん鬼の顔がついた門ではありません。北東の方位のことを指します。家相では「鬼門にトイレをつくってはいけない」など、住まいの向き、敷地のかたち、建物のかたち、間取り、庭の樹木の位置まで、決まりをつくっています。つまり住まいをとりまくさまざまなことを、方位とのかかわりの中で吉凶を占い、良いか、悪いかを判断しているのです。このような考え方は古代中国で生まれ、仏教とともに日本に伝わった（5、6世紀ごろ）といわれます。その後、日本の風土や慣習などと折り合いをつけながら、宮廷の建物に利用されてきました。今の京都のまちは、平安遷都（せんと）の際（794年）に、鬼門の方角（北東）にある延暦寺（えんりゃくじ）を鬼門除けとしました。また土地選びにも、家相と同じよりどころをもつ風水の考え方方が生かされています。時代が進み、貴族や武士たちの住まいにも取り入れられるようになりました。実は江戸城もその考え方によってつくられています。このように選ばれ、つくられた街には多くの人が集まり、今でも栄えています。

江戸時代の家相ブーム 江戸時代に入ると、戦乱の世から社会が少しずつ落ち着いていき、生活にもある程度ゆとりができます。特に、財産を蓄えた商家では、立派な住まいや蔵をつくり、財産や「お家（いえ）」を守ろうとしました。そのころの家相は、住まいづくりに必要な知識や知恵を伝えることが第一の目的であり、日当たりや風通しを大切にすることが強調されました。江戸時代中、後期には、家相や人相、手相などの占いブームと印刷・出版技術の向上によって、家相書がたくさん出版されました。それは、家づくりや心地よい住み方に関する方法を書いた教科書のようなものです。ただ中には、一般の人にも分かりやすくするためや説得力をもたせるために、「〇〇しないと、祟（たた）る」というように、読む人を脅すような表現をするものもありました。さらに家相見（かそうみ）という職業も現れて、新築や増築、改築の時に間取り図を見て家相としてどうかを、アドバイスするようになりました。今でいう、住宅コンサルタントやリフォームアドバイザーのような役割も担ったのです。そして次第に内容が複雑化し、大げさな占いのような、あまり現実的でないものに変わっていきました。

現代に生かせる家相 明治時代に入り近代化を推し進めるようになって、「家相は迷信（めいしん）である」として、公（おおやけ）にはあまり取り入れられませんでした。しかし、一般の人の間では相変わらず流行していて、占い的な要素の強い家相や風水の影響は、今日まで受け継がれています。家相書をよく読んでみると、占い的なことばかりではなく、現代の暮らしにあてはめても、納得できる内容も多いのです。たとえば、「鬼門（きもん）に便所があれば、主人中氣（ちゅうき=脳出血などによって起こる病）または手足引きつる病あり」という記述は、北東の隅は日当たりが悪くたいへん寒いので、健康や衛生面で問題が多く、病気にかかりやすいというもの。確かに昔の住まいには、冬の寒い時期にトイレで倒れる事故も多く、こうしたことを防ぐ意味があったのです。しかし現代では暖房を入れるなどの工夫をすることで解決できます。このように、内容を冷静に読んでいけば、いろいろな住まいに関する知恵がつまった考え方だとわかります。みなさんも、場所によって居心地がいいとか、悪いとか、感じることはありますか。そうした感じ方の理由を考えることが、実は家相や風水の考え方につながっているのです。



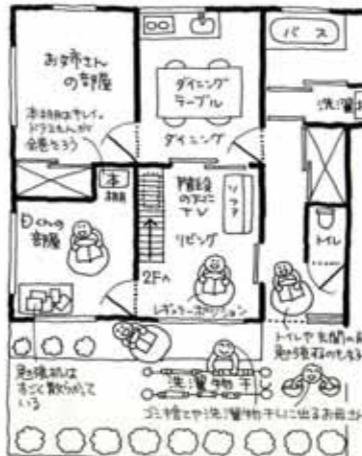
おススメ土地情報!!

【 頭のよい子が育つ家 できる子は、子ども部屋では勉強しない。 】

今、住宅総合コンサルタント会社エコスコーポレーション株式会社代表の四十万 靖(しじまやすし)さんの「頭のよい子が育つ家」(日経PB社)が話題になっています。四十万さんは、現代の核家族住宅の中で、「日本のよき住文化」がどうなっているかを研究する中で、日本のよき住文化の中にこそ、頭のよい子が育つ家の法則性があることに気づいて、この本まとめのキッカケになったそうです。有名中学校合格者の家200軒の実態調査の中から、具体的な事例を挙げながら解説しています。

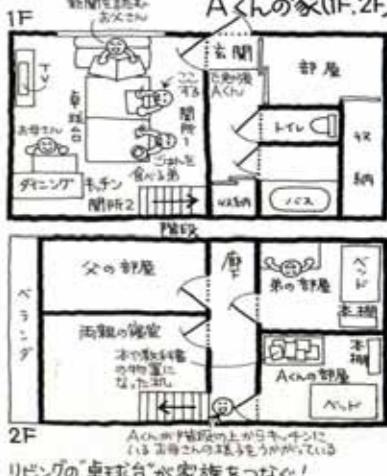
そのキーワードは、「気配と」「コミュニケーション」です。締め切った子供部屋ではなくて、何となく気配が感じられる工夫がなされている間取り。リビングに置かれた本格的な卓球台が勉強スペースという事例やダイニングテーブルの移動式勉強部屋というケースなどユニークな事例が満載です。子供は、本当は「部屋で一人ぼっちで勉強するのは、落ち着かない。お母さんに見られたい」という声などを紹介し、いつも、見られている、家族を見ていられる安心感や対話が「いい子」をつくるとしています。その点で、日本の伝統的な、和室に障子や屏風などで仕切って使えるオープンでフレキシブルな空間が最適としています。

麻布中学に合格したDくんの家(1F)



自分で考案した「移動式卓球台」が勉強スペース

栄光学園に合格した
Aくんの家(IF,2F)



リビングの「卓球台」が家族もつなぐ！

親子のすまい方教室 方位と住まいの歴史

監修 跡見学園女子大学 村田 あが

家相の始まり みなさんは「鬼門（きもん）」ということばを聞いたことがありますか。もちろん鬼の顔がついた門ではありません。北東の方位のことを指します。家相では「鬼門にトイレをつくってはいけない」など、住まいの向き、敷地のかたち、建物のかたち、間取り、庭の樹木の位置まで、決まりをつくっています。つまり住まいをとりまくさまざまなことを、方位とのかかわりの中で吉凶を占い、良いか、悪いかを判断しているのです。このような考え方は古代中国で生まれ、仏教とともに日本に伝わった（5、6世紀ごろ）といわれます。その後、日本の風土や慣習などと折り合いをつけながら、宮廷の建物に利用されてきました。今の京都のまちは、平安遷都（せんと）の際（794年）に、鬼門の方角（北東）にある延暦寺（えんりゃくじ）を鬼門除けとしました。また土地選びにも、家相と同じよりどころをもつ風水の考え方方が生かされています。時代が進み、貴族や武士たちの住まいにも取り入れられるようになりました。実は江戸城もその考え方によってつくられています。このように選ばれ、つくられた街には多くの人が集まり、今でも栄えています。

江戸時代の家相ブーム 江戸時代に入ると、戦乱の世から社会が少しずつ落ち着いていき、生活にもある程度ゆとりができます。特に、財産を蓄えた商家では、立派な住まいや蔵をつくり、財産や「お家（いえ）」を守ろうとしました。そのころの家相は、住まいづくりに必要な知識や知恵を伝えることが第一の目的であり、日当たりや風通しを大切にすることが強調されました。江戸時代中、後期には、家相や人相、手相などの占いブームと印刷・出版技術の向上によって、家相書がたくさん出版されました。それは、家づくりや心地よい住み方に関する方法を書いた教科書のようなものです。ただ中には、一般の人にも分かりやすくするためや説得力をもたせるために、「〇〇しないと、祟（たた）る」というように、読む人を脅すような表現をするものもありました。さらに家相見（かそうみ）という職業も現れて、新築や増築、改築の時に間取り図を見て家相としてどうかを、アドバイスするようになりました。今でいう、住宅コンサルタントやリフォームアドバイザーのような役割も担ったのです。そして次第に内容が複雑化し、大げさな占いのような、あまり現実的でないものに変わっていきました。

現代に生かせる家相 明治時代に入り近代化を推し進めるようになって、「家相は迷信（めいしん）である」として、公（おおやけ）にはあまり取り入れられませんでした。しかし、一般の人の間では相変わらず流行っていて、占い的な要素の強い家相や風水の影響は、今日まで受け継がれています。家相書をよく読んでみると、占い的なことばかりではなく、現代の暮らしにあてはめても、納得できる内容も多いのです。たとえば、「鬼門（きもん）に便所があれば、主人中氣（ちゅうき=脳出血などによって起こる病）または手足引きつる病あり」という記述は、北東の隅は日当たりが悪くたいへん寒いので、健康や衛生面で問題が多く、病気にかかりやすいというもの。確かに昔の住まいには、冬の寒い時期にトイレで倒れる事故も多く、こうしたことを防ぐ意味があったのです。しかし現代では暖房を入れるなどの工夫をすることで解決できます。このように、内容を冷静に読んでいけば、いろいろな住まいに関する知恵がつまった考え方だとわかります。みなさんも、場所によって居心地がいいとか、悪いとか、感じることはありますか。そうした感じ方の理由を考えることが、実は家相や風水の考え方につながっているのです。

「木」のマメ知識 高級な木もヒノキ、安物の木もヒノキという話

一般に桧は高級材と思われていますが、実は土木、造園業界では安物の木というのが常識です。例えば住宅建築土地の測量等するときの先をとがらした丸太がヒノキとスギです。公園や道路の樹木を支えている木や横に支えている木もスギとヒノキです。この直径が5~10センチぐらいの木が、今問題になってきている間伐材なのです。柱などに使われる一人前のヒノキになるためにはその山で間引きをしなければなりません。しかし、人手不足、不採算などの理由で間引きがやりにくくなっています。おかげで言えば山では測量杭のような材料の価格は0円で最終ユーザーに渡るときの価格は運賃の費用だけということになります。そりやそうでしょう。先をとがらせる加工をして1本150円(長さ1m・直径7cm)ぐらいのものですから。今どき150円で買える、長さ1mのくらいのものがありますか？

ヒノキは古くなるほど強くなる

ヒノキの木から伐採して柱などの最終製品になってから300年間は強度が向上します。そして約1000年たった時がその木を切った時と同じ強度になります。木材は他のものでもこのような性質をもっていますが、ヒノキだけがズバ抜けています。法隆寺が1400年以上経てもなんらのかわりもなく存在しているのは当時の人の適切な設計と高度な建築技術、そして現在までの継続的な維持管理と修復があるのは多くの人が認めることです。しかしヒノキではなく他の樹種を利用していたらこのように長く持たなかったと思います。また、単なる強度だけでなく生きる続けるのです。柱やタルキ等は風雨にさらされて灰色にくすみ、いくらか朽ちているように見えますが、表層をカンナで1、2回削ると、全く今製材されたままのヒノキのよう、少し匂いは落ちますがまぎれもないヒノキ独特の香が漂ってきます。

※数字などは「法隆寺を支えた木」 西岡常一、小原二郎著 から参照しました。

ヒノキは古くなるほどおしゃれ

ヒノキと感性プラスチックや鉄等の人工的に創った素材は出来たときが綺麗、今の言葉でいえばおしゃれであるが、時間や年代が経つに従い醜くなったり強くなるといったもの。まろやかさはあたたかさ、伝統、落ち着いた、安定、頼りやかさといった感じのやうな感じのやうなものだと思います。住宅は人が絶えず接するものです。こういうものは小さいものであれ大きいものであれデザイン的に見るとまろやかなものが合うと思います。

最近住宅でも木造が見直されてきたというのは会社でもシャープなものに身の回りをつつまれ、家でもシャープなものに取りかぶまれていては大変ということになんとなく木（氣）がつき始めたのでしょう。

白木のヒノキは青年のおしゃれ

あめ色のヒノキは大人の綺麗さがある。年代を経ると風格が増し、粘り強くて狂いが少なく、腐りにくいことまで見きわめてこの木を選んだとしたらその先人たちの知恵には深い敬意が払われてよいでしょう。建立以来千年余年を経て、今なお生き続けているヒノキの強さをうかがい知ることができます。法隆寺の修理に生涯をかけた宮大工の西岡常一氏は、次のように言っています。「金堂と五重の塔を解体したときのことです。軒を支えるヒノキ材が、屋根の重みでかなり曲がって垂れ下がっていました。ところが、瓦や屋根土を降ろしたら、二、三日のうちに曲がりが戻って元の姿になりました。これを見て、木は生きているのだ、としみじみ思いました。」荷重を取り除けばひすみが減るというのは木に限りませんが千年もの荷重に耐えてなお元に戻るというのは、木の中でもヒノキをおいてはほかにないでしょう。千年もかかって育った後、さらに千年以上も用材として生き続けること木はそのなかでもヒノキは古くなればなるほどおしゃれになります。